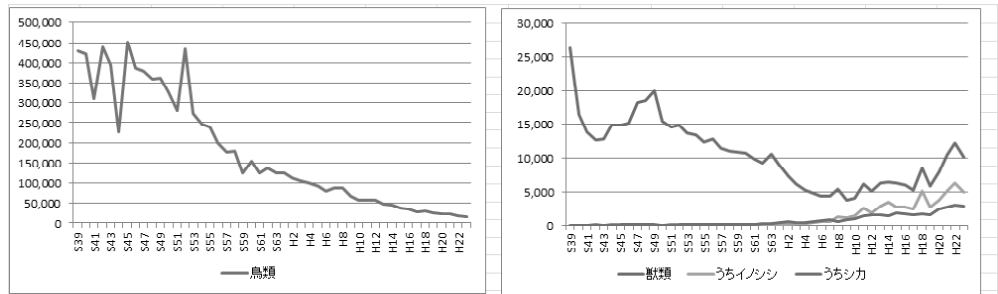


野生鳥獣捕獲数の推移及び野生鳥獣肉の放射性物質検査結果

平成25年2月9日 群馬県環境森林部自然環境課

1 群馬県における野生鳥獣捕獲数の推移

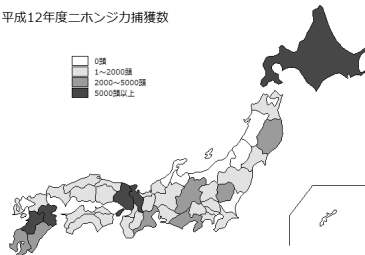
群馬県における野生鳥獣捕獲数は、昭和39年度以降、概ね減少傾向にあった。これは、鳥獣生息環境の悪化や捕獲者の減少が原因と考えられる。



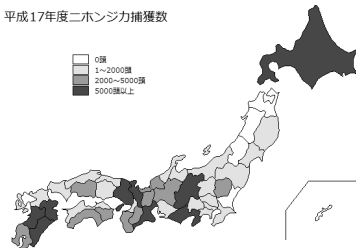
しかし、平成8年度以降、ニホンジカ及びイノシシの捕獲数が増大しており、それに伴って獣類の捕獲数が増加傾向へと転じた。特にイノシシについては、年度別捕獲数の増減が総捕獲数の増減と同じ傾向を示している。

2 平成12、17、22年度 シカ・イノシシの捕獲数

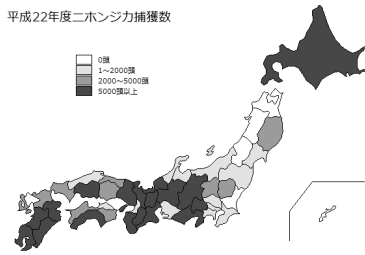
平成12年度ニホンジカ捕獲数



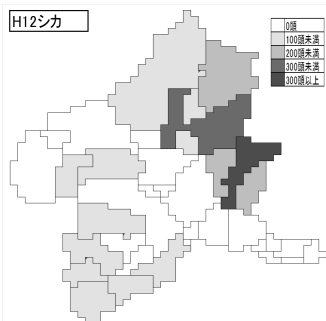
平成17年度ニホンジカ捕獲数



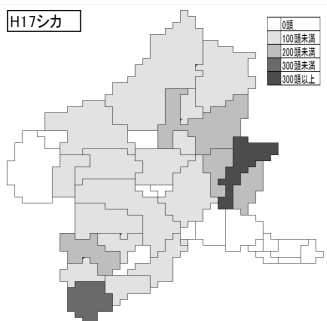
平成22年度ニホンジカ捕獲数



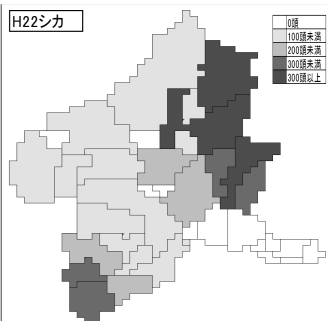
H12シカ



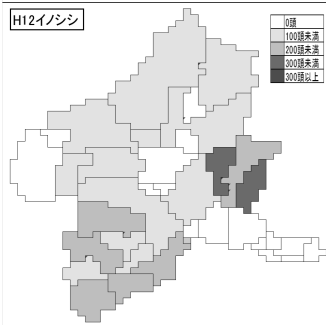
H17シカ



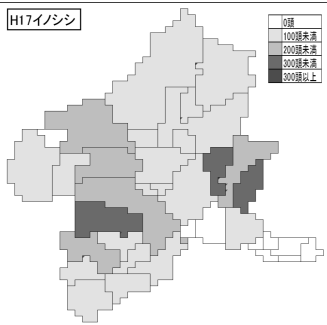
H22シカ



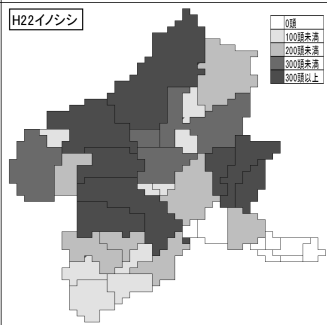
H12イノシシ



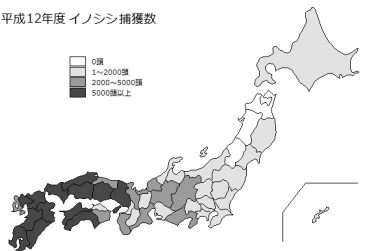
H17イノシシ



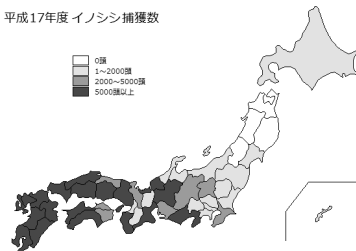
H22イノシシ



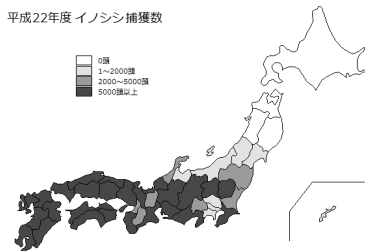
平成12年度イノシシ捕獲数



平成17年度イノシシ捕獲数



平成22年度イノシシ捕獲数

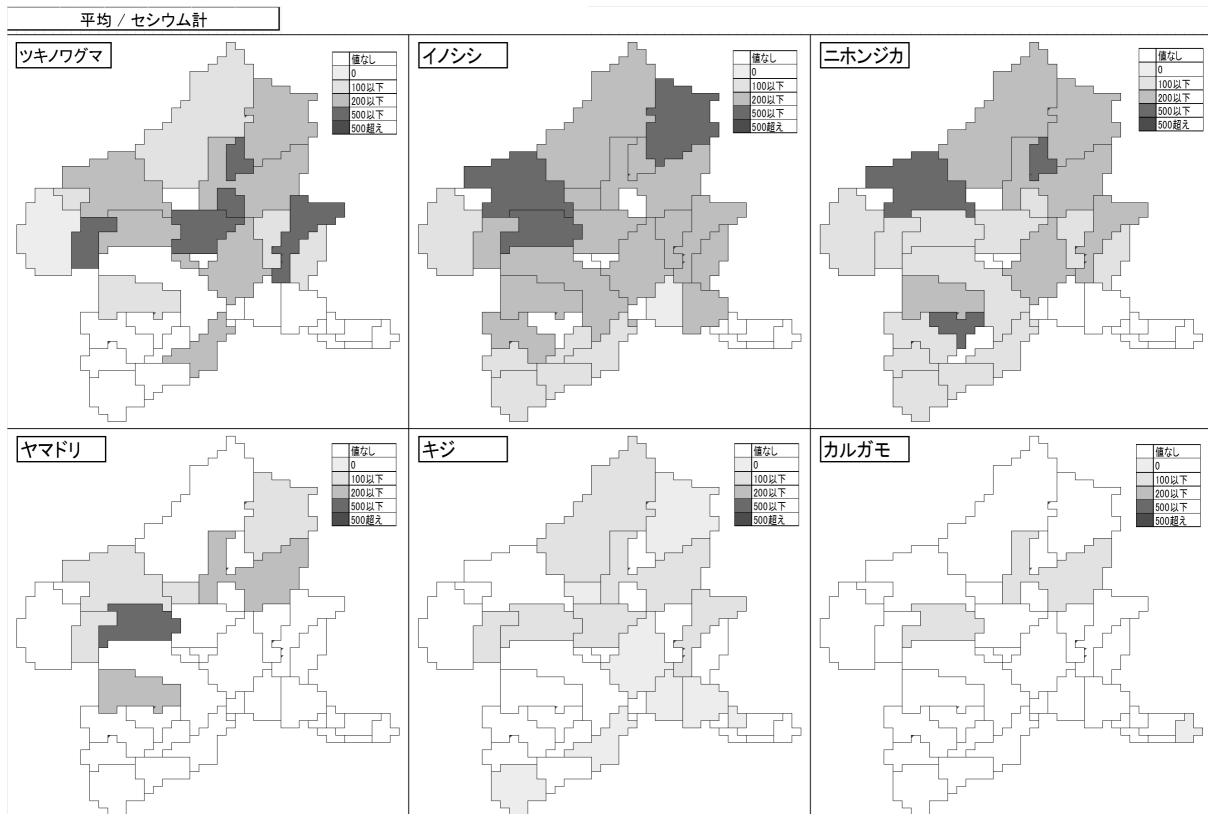
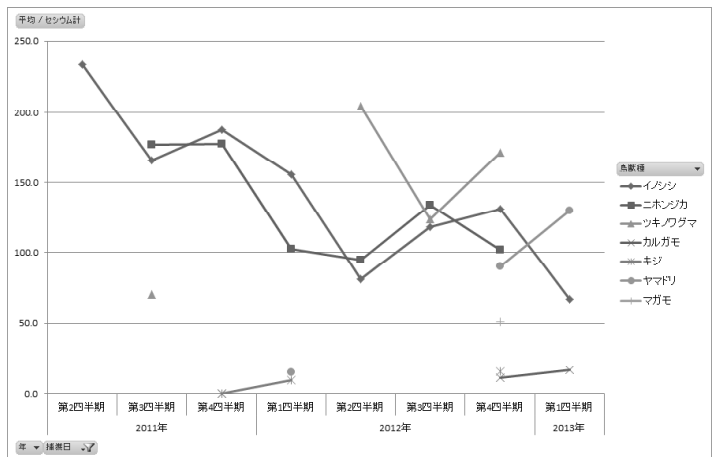


ここでは、平成12年度、17年度、22年度におけるシカ及びイノシシの捕獲数の推移を地図化した。この10年間で、都道府県別でも県内市町村別でも、捕獲の実施場所及び捕獲数が急速に広がりを見せていることが確認できる。

3 野生鳥獣肉の放射性物質検査結果

群馬県では、野生鳥獣肉の放射性物質検査を313検体実施（2013年2月1日現在）している。その結果、クマ、イノシシ、シカ及びヤマドリにおいて、現在の食肉の基準値である100Bq/kgを上回るものがあり、これらの種については、群馬県全域において出荷制限がかかっている。

鳥獣種	検査数	100Bq/kg超	100Bq/kg超比率
ツキノワグマ	84	45	53.6%
イノシシ	114	57	50.0%
ニホンジカ	84	37	44.0%
ヤマドリ	9	3	33.3%
キジ	18	0	0.0%
カルガモ	3	0	0.0%
マガモ	1	0	0.0%
総計	313	142	45.4%



検査を実施するにあたっては、捕獲が行われない限り検体が確保できないため、どうしても地域的・時期的なバラツキが発生する。これらを十分に考慮して分析を行うには検査数がまだ十分とはいえないことから、今後も継続して検査を行う必要があると考えられる。

最後になりましたが、放射性物質検査の検体提供にあたっては、県内各市町村及び猟友会等捕獲を行った方には多大なる御協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。